

プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

カンボジア王国

ボレイ・チュルサール地域開発プログラム(CAM-198338)



妹たちに食事の前の手洗いを教えるパンハリーチ君(12歳)

チャイルドストーリー

子どもたちのリーダーへと成長したパンハリーチ君

ボレイ・チュルサール地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域で暮らすパンハリーチ君は、以前は家の手伝いをまったくしないばかりか、食前の手洗いもせず、入浴や髪をとかすことも嫌いで、弟妹や友だちをいじめては両親や学校の先生に叱られる問題児でした。しかし、ADPの活動に参加するようになり、ほかの子どもたちと一緒に衛生や教育についてゲームをしながら学ぶうちに、変わり始めたと言います。手洗いや家の手伝いなどの良い習慣が身に付き、勉強にも積極的に取り組むようになりました。今では子どもたちのグループリーダーになり、友だちやほかのグループメンバーを助けています。「グループの活動で新しいことをたくさん学べます。ほかの人々と関係を持ち、自分自身を成長させ、学んだことを友だちと分かち合えることが嬉しいです。ぼくを励ましながら、ぼくの心に触れ、勤勉で態度の良い子ども

に変えてくれたADPのスタッフに感謝しています」と話すパンハリーチ君。母親もパンハリーチ君の変化に驚き、「村の多くの子どもたちも支援の恩恵を受けられると良いと思います」と話しています。



以前は宿題をせず遅刻も多かったというパンハリーチ君。今は7年生のクラスでトップクラスの成績を修めています

地域組織化プロジェクト

地域内に様々な住民グループが育ち、活発に活動を展開し始めました

地域住民が持っている知恵や力を出し合って、子どもたちの健やかな成長を自分たちで持続的に実現していくことを目指して活動しています。2014年度は、地域内の様々な住民グループのための研修を実施しました。

その結果、28の住民グループ、16の青少年グループ、21の子どもグループが活発に活動しています。これらのグループ



住民グループでの話し合いの様子

活動を通して、住民自身が小規模事業を企画、立案、実施しており、2014年度は33件の事業が実施されました。事業の内容は、村内の清掃、手洗いや爪切りの啓発活動、公共の貯水池の設置、養豚による収入向上、道路改修などです。これらの事業は子どもたちを含む多くの住民の生活改善に役立ちました。



家の近くに貯水池ができ、水汲みが楽になりました

住民グループが立案・実施した事業によって完成した貯水池



地域の住民グループが主体的に企画・立案・実施した事業の数→**33**件

教育プロジェクト

子どもたちが年齢相応の学習ができるよう活動を開始しました

2014年度は、地域の中で特に弱い立場に置かれている子どもたちが、適切な就学前教育と初等教育を通して、年齢相応の学習ができるようになることを目的とした活動を開始しました。この活動の一環として、学校関係者や保護者、住民から成る学校支援委員会、青少年グループ、子どもグループなどとの話し合いや研修を実施しました。これらを通して、子どもの教育の重要性や、質の高い教育の必要性、それぞれが果たすべき役割を、参加者が再認識するよう働きかけました。

2014年度、青少年クラブ、学校支援委員会と600人の子どもたちの参加を得て、小学校入学推進キャンペーンを実施しました。この結果、就学率が2013年度の82.97%から83.59%に、また、小学校の修了率が2013年度の92.53%から92.85%に増加しました。また退学率は7.44%から1.17%に減りました。



小学校入学推進キャンペーンに参加する子どもたち



小学校入学推進キャンペーンの結果、入学する子どもが増えました

小学校1年生を教えるティ先生と、読み書きを学ぶ子どもたち



退学率が低下 **7.44%** (2013年) → **1.17%** (2014年)

保健衛生プロジェクト

保健衛生に関する地域住民の知識向上と行動の変化を目指して活動しています

安全な水の確保のために、2014年度は県農村開発局と協力して、地域の水衛生に関する行動グループの設立に注力しました。8つの村に設置された行動グループに対して、地域で実践可能な衛生改善の手法を伝え、グループのメンバーが地域住民に対して、衛生改善のために日常の行動を変えるよう働きかけました。その結果、これまで屋外で排泄をしていた8つの村の374世帯が、自主的にトイレを設置しました。今後は残る487世帯に対しても、引き続き働きかけていきます。

また、地域の6つの学校の2,591人の生徒を対象に、手洗いの必要性と習慣化の啓発を行いました。地域の保健センターとも連携を図りつつ、保健衛生や感染症に関する知識や予防方法が家族や地域住民にも浸透していくよう、引き続き活動していきます。



衛生改善のために野外排泄をやめることの重要性について話を聞く地域の人々



外で遊んだ後は手を洗うようになりました

手洗いの大切さを学んだ子どもたち



8つの村の**374**世帯が、
自主的にトイレを設置



支援地域の女性のストーリー

教育の重要性を学び、教育費を貯蓄し始めました

モーウンさんは夫とともに農業を営み、3人の娘を育てています。娘の一人がADPのチャイルドとして登録されてから、農業グループと貯蓄グループに参加するようになりました。貯蓄グループで貯めたお金で、子どもたちを大学まで行かせたいという希望を持っています。また、ADPの活動を通して、子どもの保護、教育と衛生の重要性についても学びました。衛生に関する知識を得て、子どもたちに手洗いを促すようになったと言います。

昔は何の夢もなかったというモーウンさん。しかし今は、子どもたちが大学を卒業し、できればワールド・ビジョンのスタッフのように地域に貢献して欲しいという夢を持っています。



支援地域に住むモーウンさん(34歳)

ADP マネージャーからのごあいさつ



ご支援によって、地域に住む子どもたちとその家族の生活は大きく改善されつつあります。保護者が教育の重要性を理解し、子どもたちの勉強や健康に強い関心を持って接するようになった結果、子どもたちの学力が上がりました。また、8つの村で10代の子どもたちのグループを編成し、このグループを通して、子どもたちは自信を持って楽しく学びあえるようになりました。子どもたちは清潔な水、適切な衛生状態、そして教育を受ける機会を得られるようになってきています。今後さらに多くの支援が届けられることを願っています。地域の人々に働きかけ、彼らを主役にする支援方法で、人々の考えや行動に少しずつ変化が現れてきています。子どもたちの人生がADPの活動を通してさらに

良くなることをこの目で見たいと思います。皆さまの尊いご支援に心より感謝するとともに、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。



ボレイ・チュルサール ADP マネージャー
レイ・シネット (26歳)

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



チャイルド・スポンサーへの手紙を書く子どもたち

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

会計報告

CAM-198338

収支計算書 自2013年10月1日 至2014年9月30日

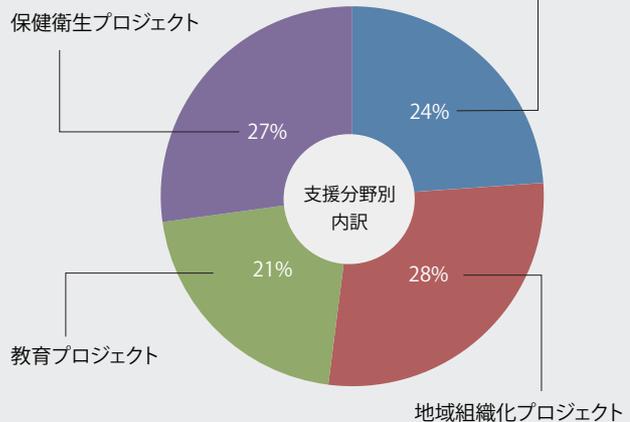
プログラム支援額(単位:円)

チャイルド・スポンサーシップ	19,049,283
当期支援額	19,049,283
前期繰越金	854,907
プログラム支援額合計	19,904,190

プログラム支出額

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	4,754,549
地域組織化プロジェクト	5,599,327
教育プロジェクト	4,147,536
保健衛生プロジェクト	5,410,559
プログラム支出額合計	19,911,971
次期繰越額	-7,781

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



お問い合わせ

特定非営利活動法人 **ワールド・ビジョン・ジャパン**
 電話：03-5334-5351 (平日 9:30 ~ 17:00)
 FAX：03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ：www.worldvision.jp
 e-mail：dservice@worldvision.or.jp